

平成31年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 旭 中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成31年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成31年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 英語, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 152 人

② 数学 152 人

③ 英語 152 人

5 留意事項

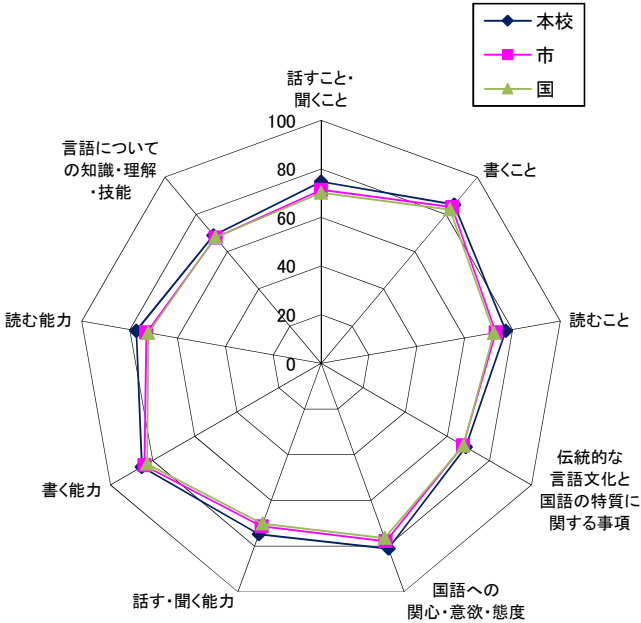
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学、英語の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立 旭 中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国, 市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	74.8	71.4	70.2
	書くこと	85.2	83.9	82.6
	読むこと	77.2	73.0	72.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	68.8	67.5	67.7
観点	国語への関心・意欲・態度	81.1	77.9	76.5
	話す・聞く能力	74.8	71.4	70.2
	書く能力	85.2	83.9	82.6
	読む能力	77.2	73.0	72.2
	言語についての知識・理解・技能	68.8	67.5	67.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

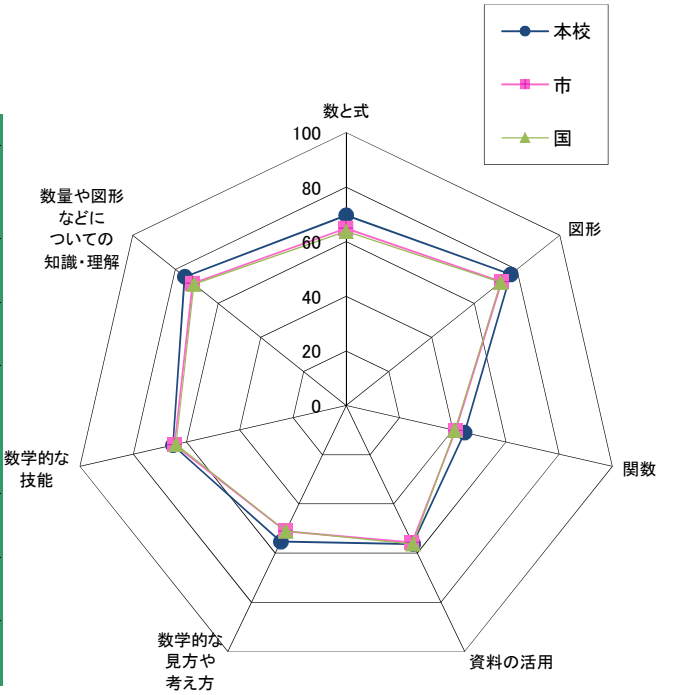
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○正答率が市平均より3.4ポイント高い。特に、「話合いの流れを踏まえて自分の考えを書く」問いの正答率は、全国平均より7.4ポイント高い。 ●「話合いの流れを踏まえて自分の考えを書く」問いでは、2.6ポイントの無回答率が見られた。条件を満たしながら、自分の意見を解答することに課題が見られる。	・相手の立場や考えを想定しながら、分かりやすく説得力のある話を組み立てられるようにする。 ・目的や相手、時間を意識して、話す内容や話し方を変えることができるように指導する。 ・共通点と相違点を明らかにし、それぞれの意見から論点を見つける力を身に付けられるように、話合いの時間を設ける。
書くこと	○正答率が市平均より1.3ポイント高い。特に、「意見文の下書きに書き加える言葉として適切なものを選択する」問いの正答率は、全国平均より2.7ポイント高い。 ●「伝えたい事柄について根拠を明確にして書く」問いでは、二つの条件のうち、一方の条件しか満たさずに解答しているものが、全国平均より1.1ポイント多く見られた。	・今後も文章を推敲させる活動の際には、目的や意図、伝える相手などを意識させながら行う。 ・調べたことをまとめ直したり、体験を具体的に描写したりするとともに、文章の構成を工夫して書く活動を行う。 ・説得力のある根拠を、具体的に出し合う活動を行いながら、自分の意見を効果的に伝えるための工夫を考える活動に取り組む。
読むこと	○正答率が市平均より4.2ポイント高い。特に「文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える」問いの正答率は、全国平均より、4.2ポイント高い。 ●「文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをもつ」問いでは、全国平均より1.2ポイント高いものの、6割程度の正答率にとどまった。	・場面の展開や表現の仕方に着目しながら、作品を読み進めることができるようにする。 ・人物や情景の効果的な描写を捉えながら、作品を読み深める学習活動を展開する。 ・登場人物のものの見方や考え方について、自分の考えをまとめることができるよう指導する。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○正答率が市平均より1.3ポイント高い。 ●正答率は、全国平均よりも1.1ポイント高いものの、「封筒の書き方を理解して書く」問いの正答率は、5割にとどまった。4つの条件のうち、すべての条件を満たしている解答は、2割にとどまった。	・語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使えるようにする。 ・曖昧な文やわかりづらい文にならないように、簡潔で正確な構造の文を書けるように指導する。 ・書く目的やそのための工夫を考えながら、様々な書き方を習得できるように指導する。

宇都宮市立 旭 中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国, 市と本校の状況

【数学】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	69.7	64.9	63.8
	図形	77.1	72.8	72.4
	関数	44.5	41.1	40.8
	資料の活用	56.3	55.7	56.3
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方	55.3	51.1	51.0
	数学的な技能	65.1	64.5	63.9
	数量や図形などについての知識・理解	75.7	71.9	71.3



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

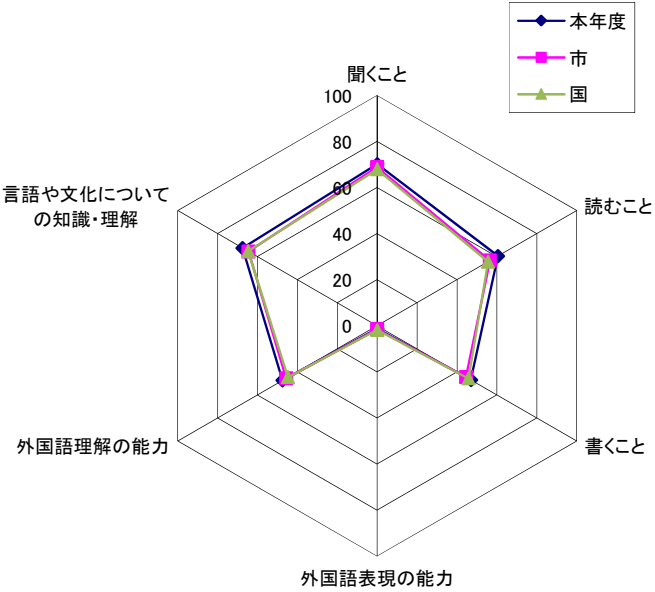
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○正答率が市平均よりも4.8ポイント、全国平均よりも5.9ポイント高い。特に、「事柄が成り立つ理由を説明する」問題では、全国平均よりも9.4ポイント高い。 ●「数の集合と四則演算の可能性について理解している」ことを問う問題では正答率が62.5%であり、全国平均よりは高いものの、3分の1以上の生徒が間違えている。	・計算問題については授業で適宜演習の時間を設け、定着を図る。 ・数の性質を文字で表すことについては、表現だけでなくなぜそのような形で表せるのかを理解させる。 ・数の集合と四則演算については、具体的な数値を用いて演算可能性について考えさせる。
図形	○正答率が市平均よりも4.3ポイント、全国平均よりも4.7ポイント高い。特に、「ある予想に対して与えられた図が反例となっていることの説明として正しいものを選ぶ」問題では、全国平均よりも7.9ポイント高い。 ●「証明で用いられている三角形の合同条件を書く」問題では、正答率が全国平均より1.5ポイント低い。	・合同条件は証明で必ず用いるので、一言一句間違わずに覚えさせる。 ・証明については、「等しい辺や角を見つける」「どの合同条件に合うか図と条件を照らし合わせる」ことを意識させながら取り組ませる。
関数	○正答率が市平均よりも3.4ポイント、全国平均よりも3.7ポイント高い。特に、「反比例の表から式を求める」問題では、全国平均よりも7.7ポイント高い。 ●「グラフからy座標の差を求める」問題では、正答率が全国平均より1.3ポイント低い。	・関数の単元では「表」「式」「グラフ」をそれぞれ作ることと、「表から式」「式からグラフ」など、関連付けをしながら定着を図る。 ・数値を求めるには代入して計算の習得が必須である。「数と式」における式の値を求める問題の確実な定着を図る。
資料の活用	○正答率が市平均よりも0.6ポイント高い。特に、「読んだ本の冊数と人数の関係をまとめた表から、読んだ本の冊数の最頻値を求める」問題では、全国平均よりも7.9ポイント高い。 ●「2枚の10円硬貨を投げた時、2枚とも表が出る確率を求める」問題では、正答率が全国平均より7.0ポイント低い。	・様々な代表値について、その意味と求め方を1つ1つ丁寧に扱う。 ・確率については、樹形図や表のかきかたや読み取り方を確認しながら問題に取り組ませる。

宇都宮市立 旭 中学校第3学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の国, 市と本校の状況

【英語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	聞くこと	70.2	68.9	67.9
	話すこと			
	読むこと	60.6	56.5	55.6
	書くこと	47.0	44.6	45.8
観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度			
	外国語表現の能力	1.3	1.5	1.8
	外国語理解の能力	47.4	45.6	44.7
	言語や文化についての知識・理解	67.5	64.5	64.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	○平均正答率は全国平均を上回っている。教室英語やある状況を聞いて、その内容を最も適切に表している絵を選択することはよくできている。普段から、教室英語に触れるとともに、ALTと英語でコミュニケーションをとる機会や友だちの発表を聞く機会を設定してきた成果と考えられる。 ●まとまった会話を聞いて絵を選択する問題においては、課題が見られる。	・ペアワークやグループワークを通して英語でやり取りする機会を多く持たせ、友だちの話していることに耳を傾けて聞くように指導する。 ・教科書の本文を読む際に、Q&Aなどを使ってまとまった英文をよく聞きとる練習を継続する。 ・ALTを十分に活用する。
話すこと		
読むこと	○平均正答率は、全国平均を上回っている。まとまりのある文章を読んで話のあらすじを理解することはできている。身近なものや興味を持てる内容なので理解しやすい内容だったと考えられる。 ●説明文を読んで正確に内容を理解したり、環境問題を読んで、自分の意見を持つことに課題が見られる。	・単元の復習の時間を利用して、身の回りのことや読みやすい内容ばかりでなく、様々なジャンルの読み物に触れさせる機会を持つ。 ・社会問題や説明文などのまとまりのある文章を読んで、自分の意見を表現できる力を育てる。
書くこと	○平均正答率は、全国平均を上回っている。文の中で適切な語句を書き入れることはよくできている。普段から、文法事項の反復練習をインプット、アウトプット活動の機会を多く設定している成果であると考えられる。 ●与えられたテーマについて考えを整理し、文と文のつながりなどに注意してまとまりのある文章を書くことが課題である。	・今後もインプット、アウトプット活動を継続する。 ・与えられたテーマに対して自分の意見を書いたり、その理由を書いたりできるように、帯活動や単元のまとめの時に英語で振り返りを書いたり、考えを書いたりできる力を育てる。

宇都宮市立 旭 中学校 第3学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○ものごとに取り組む姿勢が前向きである。最後までやり遂げたり、挑戦したりすることに対しての肯定的割合も全国を上回っており、うれしかった経験や達成感が積み重なっていると考えられる。

○学習に関して、「自分で計画を立てて勉強している」と回答した生徒割合は64.5%で、6割を超えており、自主学習の習慣が身についてきていると思われる。学習時間については、1日に3時間以上が13.8%、2～3時間が25.7%、1～2時間が40.1%となっている。今後は、学習時間を増やすとともに、学習内容の質も高められるように、引き続き支援を続けていきたい。

○「読書が好き」と回答した生徒は、81.5%であり、図書館や図書室を利用している割合は、県や全国を上回っている。毎日の朝の読書が定着し、身近なものとなっている。

○自分で課題を立てたり、課題について自ら考え取り組もうとしたりしている姿勢が多くみられる。総合的な学習の時間などで課題解決や発表を経験し、通常の授業でもその経験を生かしていると考えられる。話し合いを行うことで、自分の考えを深めたり広げたりできているという生徒が80%を越し、県や国よりも高い。今後も授業の中で考えを発表したり、話し合ったりする場面を多く取り入れる。

○地域や社会へ関心があり、県や全国を大きく上回っている。地域・社会をよくするために何をすべきか考えており、ボランティア活動に参加している生徒の割合も高い。本校のボランティア活動に対する取り組みの成果であると考えられる。教師の負担も大きいですが、本校の伝統でもあり、誇りでもあるので、これからも積極的に推進していきたい。

○「学習が大切だ」と回答した生徒は、国語・数学・英語において高い割合を示している。また、社会に出た時に役に立ち、活用しようとする生徒の割合が高く、実践の結果である。特に国語における関心が高い。

●国語・数学・英語の学習において、「授業の内容はよく分かる」と回答している割合は、国語で89.5%、数学で79%、英語で68.4%と、どの教科も県や全国を上回っている。が、「回答時間は十分だった」の回答は、県や全国を下回っている。授業で理解し学んだ知識をしっかりと定着させるためにも、学習時間を増やすとともに、学習内容の質も高められるように指導していきたい。

宇都宮市立 旭 中学校（第3学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
家庭学習の習慣化	「学習の手引き」に、新たに、自主学習ノート用いた家庭学習の取組に関する工夫など具体例を多く示し、生徒の取組を充実させる。（自主学習ノート実施3年目）	「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。」に対して、2～3時間と回答した生徒の割合が25.7%であり、全国と同等であるが、県平均より3.9ポイント低い。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
国数英の正答率が、全国・県平均より3ポイント高い。「書く能力、表現の能力」、「言語についての知識・理解」や「数学的な技能」に関しては、1～2ポイント高い程度である。	基礎学力の定着	基礎的な学習内容の定着を図るために、短い時間を活用して行う指導を週1回設定する。全校生徒が与えられた課題に取り組み、全学級で教員がTTで指導にあたる。